

1 はじめに

平成 27 年度の我が国の経済は、大胆な金融政策、機動的な財政政策、民間投資を喚起する成長戦略を柱とする経済財政政策の推進により、雇用や所得環境が改善し、緩やかな回復基調が続いたものの、新興国経済の景気減速等の影響から輸出が低迷し、民間の設備投資や個人消費の回復に遅れが見られました。国は、経済の好循環を確立するため、「一億総活躍社会の実現に向けて緊急に実施すべき対策」を取りまとめ、各種政策の効果により、景気は緩やかな回復に向かうことが見込まれました。

こうした中、本市では、新藤山台小学校の建設を始めとして、J R 春日井駅自由通路や一般廃棄物最終処分場などの大規模な施設整備を進め、また、健康づくりの拠点として総合保健医療センターにおける保健体制の充実を図るとともに、各種がん検診を始めとする健康診査や感染症予防対策などの「健康社会の実現」、小中学校の普通教室への空調機設置及びトイレ環境の改善や、子ども・子育て支援施策の推進などの「子育て環境の充実」、産業振興アクションプランに基づく企業誘致や事業者支援及び高蔵寺ニュータウンのまちづくり推進などの「地域活力の創造」に重点的に取り組んでまいりました。また、歳入では、法人市民税の一部が国税化され減収となるものの、収納率の向上や納税義務者数の増加により、個人市民税が 4 年連続で増収となるなど堅調な市税収入に加え、消費税率の改定に伴う地方消費税交付金の増額のほか、新たな財源確保策として、ふるさと納税推進事業に着手し、市内外から約 4 億 7 千万円の寄附金を獲得しました。

これらの結果、平成 27 年度の一般会計決算は、歳入歳出とも過去最大の規模となり、実質収支は 30 億円を超える黒字となりました。

また、全会計における市債残高の削減及び将来負担比率等財政指標の改善については、第 2 次中期財政計画に掲げた目標値の達成に向けて順調に推移しています。